

ミスとロスが減り始めると会社の空気もよくなる。うちの会社の強みってなんだっけ？みたいなの前向きな議論も出始めました。以前は父のトップマネジメントで意見は出にくかったのですが、体育会で鍛えた下手にできることのできる能力のおかげで（笑）。営業陣だけでなく普段は口数の少ない職人さんからも声が出始め、社員さんとの関係も変わっていききました。特にうちの様な現場仕事の場合は作業現場の状況をどれだけ把握できるかは会社の利益に直結するので非常に重要、また意見を吸い上げることで言われたことだけするスタッフが減ってきました。ですので、うちのプラットフォームは朝礼ですと言いつけるくらい大事な場として今も捉えています。

色とりどりの喜びを創造し街に元気を届けたい

そして40歳になったとき社長に就任しました。就任といえばキレイな言葉ですが父から無理やり奪い取った感じ（笑）。父には会長になつてもらいました。就任したときに思ったのは「この真っ白なキャンパスに何を描こうか」。私のような後継ぎの多くは、いかに先代が作った道を守ろうか？と考えると思うのですが、そうではなく、スタッフやお客様との繋がりを意識してつくっていくことで色々な可能性が広がります。成長チャンスがいくらでもあると考えています。秋野塗装の最大の強みはコミュニケーション能力。これが社内だけでなくお客さまだったり協力会社さんだったりするので、コミュニケーションの能力をあげるためには寄り添って話を聞くこと、そしてともに成長していく。成長を感じられたら人も会社も離れることはあ

りません、その成長の過程を朝礼を通し共有することが私の責任であるとも感じています。

B to Bなので来客は以前はほぼありませんでした。でもここ最近毎日のようにいろいろな人が来ます。そうなるとう事務員さんは経理の仕事だけではなくお茶をだしたり、挨拶する必要も出てきます。以前であれば「お客さんにお茶だして！」みたいな命令的な雰囲気だったと思うのですが「お茶を出すのは会社の顔としての大事な仕事だよ！だから挨拶もしっかりとしようね」と声をかけ、挨拶よかつたねーと成長を認めホメる。そうすると本人も達成感を感じまた次も頑張ろうとする気になる。私自身もいろいろな人の出会いが変わってきました。一番成長をしたのは他責がなくなったこと。父が悪い、社員が悪い、世の中が悪い、だったのをすべて自責で考えるようにした。となるとどうしたらいいか？と考えるようになり知恵が出るようになるのです。自分で責任もつけない人には覚悟も感じないから人もついてこない。だから言葉だけでなく生き様で示すことではじめて人は本気さを感じ信じてくれると思つています。

息子が小学校の作文で「大きくなったら塗装屋になりたい」と書いてくれたのですがすごく嬉しかったですね！父がいよいよ仕事してたらそうは思わないでしょうし、充実した人生を送っているのを子供なりに感じているのでしょう。今後の夢はコミュニケーションが石川県で番活発な会社を創りたい、これからは家庭でも企業でもコミュニケーションが何より大事になると思うからです。お互いを理解し、認め合い、受け入れあい、ともに成長している、そんなイメージです。ワクワクするでしょ！塗装業はもともと課題解決型、何平米、何日まで何色塗ってくださいみたいな感じ。でもうちが目

指すのはポジティブ提供型仕上げ業。言われたことではなく前向きな提案で色とりどりの喜びを創造し街に元気を届けたい。前期に借金全部返して、自己資本比率は10年前は35%前後から、85%にまで成長しました。おかげ様です。10年ビジョンの経理目標として掲げた数字は達成する事ができました。次はどうかやって投資を活用するか？など財務目標も立てネクスト10年ビジョンを立てている所です。私が66歳の時に長男が35歳なので、そこが事業承継のタイミングと決めています。それまでに会社を成長させベストなタイミングで次世代にバトンタッチさせたいですね。

石川そして北陸の街にポジティブな彩りと、元気を届ける

元旦地震の時はコタツで昼寝していました。いきなりの揺れで飛び起き、家族に「机の下へ入って」と指示を出すくらいで、買ったばかりのテレビを抑えるくらいしか、できませんでした。その直後「津波です」。本来行く予定だった、近くの小松高校が避難所で、すぐに開設されました。職員さんも動揺があるなかとして迅速な対応に、とても感謝と感心をしなが、しばらくすると体育館のスクリーンにNHKのニュースが流れ、輪島市の火事を目の当たりにしました。「我々は映画を観てるのかわ？」。しばらくこの数時間で、起こっている事の実感が無く、受け入れられない感じでした。揺れが落ち着き一旦会社へ。鍵を開けると大掃除したばかりの社内が、モノで散乱してしました。幸い、危険物扱いのシンナーや、塗料はしっかりと保管されていたので、火災も起こらず、日頃の5S活動の賜物でした。元旦の夜

は21時ごろ、自宅へ戻り余震に身構えながら、うつすらと眠ったくらいでした。2日は家と会社の片付けをして、帰ってきた途端に羽田の衝突事故をテレビで見て「やっぱり映画なのか？それとも日本が終わるのか？」。またまた現実を受け入れられなかった年明けでした。私が住む小松は南加賀地方、震災で全国報道されているのは能登地方、同じ石川県でこれほど違うのか？と強い憤りを感じながら、一方でSNSではフェイク記事や、震災現場へ行く、行かない等の誹謗中傷があったりと、益々心が疲れ

たり、ザワつきが取れない中、私や秋野塗装にできる事は何か？を考えている最中でありました。仕上げ業は、寸断された道路を直したり、ガレキを撤去する事はできません。復興が進み、その後からの仕事の主になるでしょう。それまでの期間では、自社や協力会社のコミュニケーションを使って「人」を動かしてなんらかのお手伝いをする事は可能かと考え、いくつか応急処置などで活躍している隣接業者（防水や瓦や足場）には声をかけました。必ず石川、そして北陸の街にポジティブな彩りと、元気を届けるのが私達のミッションです。その為に今は心を寄せて、その時が来たら、一斉に取り掛かれる準備しております。北陸新幹線は今年3月に金沢から南加賀方面へ敦賀まで開業します。南加賀方面は復旧も早く観光もできます。石川県全体に想いを寄せるひとつとして捉えて頂き、IP愛読の経営者の皆様どうか能登、北陸の復興へ支援をよろしくお願い申し上げます。



6.とにかく話が面白いのでノリノリで聞いてしまいました（^^） 7.社員さんへの想いを語るときの真剣な表情

言葉だけでなく生き様で示す